

製品名: リン酸化 PKC ゼータ (T560) (14P10) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe05975**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:200
分子量	68kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKCZ
別名	aPKCzeta; nPKC zeta; PKC 2; PKC ZETA; PKCZETA ; Protein kinase C zeta; r14-3-3;
遺伝子 ID	5590.0
SwissProt ID	Q05513
免疫原	ヒト PKC ゼータの Thr560 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

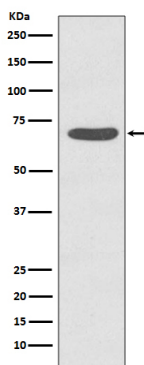
背景

PKCは、分泌、遺伝子発現、増殖、筋収縮など、様々な細胞応答を制御するカスケードにおける最も初期のイベントの一つです。PKCはジアシルグリセロールによって活性化され、様々な細胞タンパク質をリン酸化します。PKCは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの受容体としても機能します。上皮細胞の分極において中心的な役割を果たす四次複合体のサブユニットです。カルシウムおよびジアシルグリセロール非依存性のセリン/スレオニンタンパク質キナーゼで、ホスファチジルイノシトール3キナーゼ (PI3K) 経路およびマイトジェン活性化タンパク質 (MAP) キナーゼカスケードで機能し、NF- κ B 活性化、マイトジェンシグナル伝達、細胞増殖、細胞極性、炎症反応、および長期増強 (LTP) の維持に関与します。マクロファージにおけるリポ多糖類 (LPS) 処理時、または細胞分裂刺激後に、PI3Kの下流で機能し、RAF1 活性化とは独立して MAP2K1/MEK1-MAPK1/ERK2 シグナル伝達カスケードを活性化する。インスリン依存性の AKT3 活性化に必要なが、直接的な活性化因子というよりはアダプターとして機能する可能性がある。インスリン処理により、PI3Kの下流エフェクターとして作用し、脂肪細胞におけるグルコーストランスポーター SLC2A4/GLUT4 の転座の活性化とそれに続くグルコース輸送に寄与する可能性がある。EGF 誘導細胞では、キナーゼ活性とは独立して MAP2K5/MEK5-MAPK7/ERK5 に結合して活性化し、MEF2C を介して JUN プロモーターを活性化できる。SQSTM1/p62 との結合により、特異的アダプター RIPK1 および TRAF6 と共にインターロイキン-1 シグナル伝達および NF- κ B の活性化に機能する。IKKBK キナーゼをリン酸化および活性化することで TNF 依存性 NF- κ B トランス活性化に関与し、NF- κ B 阻害薬の分解につながる。遊走性アストロサイトでは PARD6A と細胞質複合体を形成し、CDC42 にリクルートされて微小管モーターおよびダイニンとともに細胞極性の確立に機能する。FEZ1 と結合して PC12 細胞の神経分化を刺激する。炎症反応では、インターロイキン産生、JAK1 の効率的な活性化、それに続く STAT6 のリン酸化および核移行を含む T ヘルパー 2 (Th2) 分化プロセスに必要である。Th2 免疫応答に依存するプロセスであるアレルギー性気道炎症 (喘息) の発症に関与している可能性がある。NF- κ B を介した炎症反応において、RELA サブユニットの「Ser-311」をリン酸化することにより、SETD6 依存性の NF- κ B 標的遺伝子抑制を緩和することができる。in vitro において VAMP2 をリン酸化 (PubMed:17313651)。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



カリキュリン A 溶解物で処理した HeLa 細胞におけるホスホ PKC ゼータ (T560) 発現のウェスタンブロット分析。